



資料提供

平成 27 年 3 月 2 日

所 属：公立大学法人 県立広島大学
本部経営企画室

連絡先：082-251-9727

担当者：梶川，塩田

平成 27 年度 県立広島大学重点研究事業
「地域課題解決研究」における研究課題の募集について

1 趣 旨

県立広島大学では、地域課題の解決による地域産業の振興等への貢献を目的として、平成 27 年度において、県立広島大学重点研究事業「地域課題解決研究」を県内の地方公共団体、公的機関及び公共的団体からの提案により実施することとし、次のとおり研究課題を募集します。

2 研究課題の募集について

(1) 募集する研究課題

地域産業の振興等に資する次の分野・領域の研究を募集します。

ア 地域産業の活性化に寄与する研究(食品, バイオ, 環境, 企業経営, 情報システム等)

イ 地域の再生・発展に寄与する研究(地域資源, コミュニティ等)

ウ 暮らしの安心に寄与する研究(健康, 保健, 福祉等)

(2) 応募対象

県内の地方公共団体、公的機関、公共的団体等からの提案を対象とします。

(3) 応募方法

「課題提案書」に必要事項を記入のうえ、平成 27 年 3 月 16 日(月) [必着]までに電子メール又は郵便により、経営企画室へ提出してください。

提案された研究課題を学内へ公表し、研究に取り組む教員を学内募集したうえで、研究計画の採否を審査・決定します。

提案された研究課題が採択されないこともありますので予め御了承ください。

【留意事項】

・提案される研究課題は、研究成果が特定の法人・企業等ではなく、広島県又は県内の地域社会が抱える課題解決に貢献するものであることが必要です。

・採択された課題の課題提案者は研究の進捗状況を確認し、10 月末までに進捗状況報告書を提出してください。

3 備考

平成 27 年度県立広島大学重点研究事業地域課題解決研究における研究課題の募集の詳細については、本学ホームページの次の URL を御覧ください。

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/research/27proposal.html>

4 提出及び問合せ先

県立広島大学 経営企画室

〒734-8558 広島市南区宇品東一丁目 1 番 71 号

電話：(082)251-9727 (ダイヤルイン)

FAX：(082)251-9405

電子メール：kikaku2@pu-hiroshima.ac.jp

1 平成26年度 重点研究事業 地域課題解決研究 採択一覧

参考

番号	新規 継続	研究課題名	提案者	研究計画代表教員		
				所属	職名	氏名
1	継続	参加型の新しい開発教育教材の普及と開発 ～広島地域課題に根ざしたESDの取組～	広島市	人間文化・国際文化	教授	富田 和広
2	継続	管理栄養士と歯科との連携による嚥下機能の低下した高齢者への適切な食形態の提供に関する検討	広島市	人間文化・健康科学	教授	栢下 淳
3	新規	地域における介護予防事業の評価システムの確立	広島県	人間文化・健康科学	准教授	森脇 弘子
4	新規	NPO法人会計基準による財務状況調査を通じた NPO法人の信頼性向上	広島市	経営情報・経営	准教授	五百竹 宏明
5	新規	神楽団体の後継者不足の解消に向けた施策の研究	安芸高田市	経営情報・経営	准教授	和田 崇
6	新規	耕作放棄地を活用した「ナマズ養殖」による地域6次産業創出と地域活性化に向けた「ナマズ」含有成分等からのアプローチ	神石高原町	生命環境・生命科学	教授	黒木 英二
7	新規	アスパラガスの冬採り促成栽培法確立のための技術開発	庄原市	生命環境・生命科学	准教授	甲村 浩之
8	新規	タブレット端末活用による条件不利地域の高齢者支援の検討	庄原市	生命環境・生命科学	准教授	堀田 学
9	新規	灰塚ダム陸封鮎の6次産業化	庄原市	生命環境・生命科学	准教授	吉野 智之
10	継続	病院内における転倒・転落防止策 ～人間工学の視点から何が臨床に活かせるか～	広島市	保健福祉・理学療法	教授	田中 聡
11	新規	「せらにし青少年旅行村」を拠点にした地域活性化の方策提案 ～長期滞在型健康増進プログラムの提案にむけて～	世羅町	保健福祉・理学療法	准教授	長谷川 正哉
12	新規	一人暮らし高齢者の多様な居場所づくりのためのアクションリサーチ	庄原市	保健福祉・作業療法	教授	吉川 ひろみ
13	新規	サテライト研究室を核とする大学の関与による基町住宅地区の活性化の可能性について	広島市	保健福祉・人間福祉	准教授	田中 聡子
14	継続	知的障害者施設職員の障害者観の変容手法の研究	安芸高田市	保健福祉・人間福祉	講師	手島 洋

平成26年度の重点研究事業 地域課題解決研究の成果発表は平成27年夏の予定です。

2 平成25年度 重点研究事業 地域課題解決研究成果の例

1	袋利用によるトマト養液栽培技術の確立	庄原市	生命環境学部 生命科学科	准教授	甲村 浩之	
	<p>【研究概要】</p> <p>庄原市特産の夏秋採りトマトの増産による地域振興を目的として、水稲産地として約 20ha あると推定される水稲育苗施設の遊休時期を利用した栽培技術を開発した。同施設では機械移植用水稲苗生育の均一性を図るため耕うんはできない。そこで、持ち込み持ち出しが可能な袋利用栽培技術の開発に取り組み、培土に粉碎もみ殻を5割混合することで軽量、低コストの栽培法を開発した。また、これらには養液栽培も適用でき、2年目には1袋あたりの培土量を 30L から 10L に低減し、耐久性袋素材も選定し、従来の袋と同程度の収量・品質が得られることを明らかにした。</p>					
2	神楽をテーマとした地域活性化の研究	広島広域都市圏協議会 “神楽”まち起こし協議会	経営情報学部 経営学科	准教授	和田 崇	
	<p>【研究概要】</p> <p>本研究では、広島広域都市圏の神楽を事例にとりあげ、都市と農村の関係、文化と産業の関係の2点から、地方伝統文化の振興可能性を検討した。その結果、都市と農村の関係については、神楽が御神楽から里神楽、さらに街神楽へ変化してきたことを指摘した。街神楽は農村から引き出され、都市で「創られた伝統」として消費されるものであり、最近では“クールな農村”の象徴としても捉えられている。文化と産業については、都市に引き出された神楽が、商品化する過程で、保護する対象から活用すべき資源として位置づけを変化させるとともに、消費されやすい神楽と消費されにくい神楽に二分していることが明らかになった。</p>					
3	佐木島における「海浜セラピー」の科学的分析とその活用手法について	三原市	保健福祉学部 理学療法学科	教授	大塚 彰	
	<p>【研究概要】</p> <p>本研究は、現在よく知られている「森林ガイドおよび森林セラピー」に対して、新しい概念での「海浜ガイドおよび海浜セラピー」という概念と実践を佐木島をセラピー基地とした三原発信で広くひろめていくことが目的である。そのためには、海浜セラピーが生み出す健康効果(海浜の健康医学)のエビデンスの確立が必要である。すなわち、身体的健康効果(体力の維持・増強など)、精神的健康効果(リラクゼーション・癒しなど)の評価と検証である。これらのエビデンスにより、海浜セラピーのプログラムの提案と海浜の健康医学を確立した。</p>					